

教育理念	学ぶ楽しさを知り、自ら学ぶ力と豊かな人間性を身につける
目標(テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力を再生して(学力回復教育)高校を卒業</li> <li>学ぶ楽しさを体験する科学の授業で、生涯を学び人に</li> <li>目覚めよ！自分力。早期にやりたいことにチャレンジ</li> <li>目標の実現をサポートする教育システムの提供</li> </ul>

※評価基準…A:達成できている B:どちらかと言えば達成できている。 C:どちらかと言えば不十分である。 D:不十分である。

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善方針
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っており、その編成・実施の考え方について、教職員間で共有ができています。	A	教育課程の編成・実施の考え方について、理解度を深めた上で、より効果的な面接授業を実施していく必要がある。教頭が教務主任を兼務し、教育課程の編成に積極的に関与する体制を整えた。	面接授業については、科目担当教員だけでなく、学力の不足する生徒のフォローができるように、他の教員と連携をしていく。基礎学力については、レポート動画の内容を取り組みやすいものにし、戻り学習が可能なものの提供を行う。
		教育目標	生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた支援・指導を行っている。	B	基礎学力が不足している生徒への個別対応とレポート理解度向上が課題である。	
	教職員連携	組織運営	本部及び本校の校務分掌や主任体制などが適切に機能するなど、学校の運営・責任体制が整備されている。	B	昨年度確立した校務分掌や各主任・主事体制が適切に機能した。※事務長中心ではなく、教頭、主事を中心としたメンバーでの学校運営体制が機能している。	教員間、事務職員間の連携・情報共有の為に、職員会議やスクーリング会議はさらに質の高いものにしていく。
		教員・教科間連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築され、教育活動が行われている。	A	教職員間の相互理解・信頼関係に基づいた教育活動が行われている。	
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解及び連携がとれている。	A	毎週定期的な職員会議を行っており、教員と事務の間で情報共有・交換の場とすることができている。	各主事が自発的に職員を招集し情報共有する体制となるよう、意識の向上を図っていく。
		会議の有効性	職員会議・スクーリング会議などの共通認識・共通理解のもと、有効かつ効率的に機能している。	A		
	財務関係	学校経営の安定性	経営・財務が安定し、十分な教育活動を行うことができる。	B	豊田校単体では、姉妹校の開校により生徒が減少した。また、駅前キャンパスの移転により投資が必要となった。しかしながら、業務の効率化、経費の削減により単年度黒字経営であった。	人員の適切な配置、経費の削減を行い、引き続き教育関連に資金を投資していく。
		財務に関する意識	経営指標と財務状況について理解している。	B	全教職員に対して学校運営責任者による経営指標・財務関係の説明・報告が行われた。しかしながら、経営指標・財務状況についての理解に関しては、十分ではない。	半期毎に説明する機会を設け、運営状況を職員一人一人が把握できるよう努めていく。
		財務状況の把握	予算・決算の収支状況に関して理解している。	C		
	危機管理	役割分担	事故・事件・災害などに対する連携及び役割分担が明確になっている。	B	関係各所(警察・消防・学校医など)の連携はとれている。また事故、事件、災害時の校内体制も整っている。	危機管理意識を高め報告体制を確立する。四半期に一度、会議で話し合いを行い、意識を高めていく。
		安全管理	学校内の安全点検管理及び諸活動が実施されている。	B		
		危機管理対応状況	危機管理マニュアルに基づき、市役所、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれている。	A	緊急対応について大きな問題はなかったが、危険回避のためのアクションのマニュアル化、社内外の報告体制の確立を行う必要性が再認識された。	
		個人情報管理	生徒情報管理が適切に行われている。	A	個人情報管理についてはプライバシーマークを維持しており、研修体制も整えている。	
	施設・設備	施設・設備の状況	教育活動に必要な設備・備品を整えている。	A	開校から3年以上が過ぎ、必要な備品は概ね揃っている。定期テストに必要な無線LAN環境はリニューアルを行い、安定化を図った。	生徒に少しでも満足してもらえるよう、必要なものには積極的に投資をするよう努める。
		渉外	生徒募集	学校説明会の実施や学校案内パンフレットなど、効率的な広報に工夫・充実させる。	A	駅前の入学相談事務所を移転。教室数を拡張し学校説明会を定期実施し、前年以上の生徒募集をすることができた。
各教育機関との連携	市町村教育機関への訪問や県私学連絡協議会加盟校と連携した広報活動をしていく。		B	期末の生徒数は1,500名を超えたが姉妹校が大阪に開校した影響で関西圏の生徒が減少し、結果的には生徒数を減らすことになった。		
教育内容・支援	面接指導・添削指導等	スクーリング参加状況	年間スクーリング日程計画に基づいた参加促進を行う。	A	スクーリング参加日程が複数ある為、担任と相談の上、自身の都合に合わせて参加しやすい仕組みになっている。SLの日数が1日増えたことにより、実施回数が増したが、計画通り在校生のスクーリングは進めることができた。	レポート動画をより取り組みやすいものに変えていく。スクーリングの日程については見直しを行う。
		スクーリング内容(面接授業)	各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開していく。	A	面接授業の内容については、授業だけでなく、出張体験授業を取り入れ、生徒や教員が上手に触れ合うことができるよう工夫した。	
		レポート内容・添削	レポートが学習成果(興味・意欲・関心)につながる内容になっている。また、インターネットを活用した添削結果の遅延がないよう、計画的な業務を行っている。	B	レポートについては、動画による学習を取り入れ、より学習効果を得られるよう仕組みを整えた。	
	情報発信	ネット回線の有効活用	本校独自でネット開設している「マイページ(通称)」にて、タイムリーな情報提供を行っている。	A	学校独自のネット開設(通称:マイページ)により、学校イベントなどの情報提供を行っている。またSNSの有効活用により、学校行事の様子を発信する体制が確立した。さらに、レポートの提出状況を定期的に保護者に発送し、協力を促した。	自宅での学習意欲の継続の為に、保護者の協力が欠かせない。情報提供をより有効に行う為、保護者用のマイページ設置を検討していく。
		個人に対する効果的な情報提供	本校独自でネット開設している「マイページ(通称)」にて、生徒個々の学習進捗が確認できる。	B		
	情報教育	情報能力知識	各種活用能力の知識を向上させる。	A	情報の授業において、SNSの活用、危険性についての指導を行っている。	SNSから発展する事故や事件の可能性が高まっている。トラブルの事例をマイページに掲載するなど、知識をより向上させる活動が必要である。
情報モラル指導		情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取り組む。	B	また、担任による個別指導を適宜行った。		
生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進級卒業・進路決定など)を高める。	A	スクーリング時には十分対応できるが、それ以外の日常的な支援をより充実させていく必要がある。	定期的な主要都市でレポート会を行う等、教員と生徒が対面でコミュニケーションを取ることができる環境を整えていく。また保護者を含めた3者面談の機会を設けていく。
		生活指導について	学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識にて運営していく。	B	豊田駅前キャンパスが拡張移転したことにより県内生徒への対応については格段に向上した。	
		家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活が送れるよう支援していく。	B	県外の生徒への日常的な学習支援について、充実させていく必要がある。	
	進路指導	キャリア教育について	キャリア教育(進路指導)に取り組む体制が整備され、生徒の自立に向けた取組みが実践されている。	A	進路指導主事を中心に、希望進路実現(進学・就職)に向け、SL時に面談を行い早期に方向性を固めよう努めている。進学先との信頼関係を深め、指定校枠の確保にも努めている。	進路について、担任一人一人が最新情報を共有し生徒に情報提供できる体制を強化していくよう努める。
保健指導	健康の保持増進について	心身ともに健康であるための支援(定期連絡やスクーリング時における授業にて支援)	B	担任による定期的な連絡で、状況の把握を行い、必要に応じて適宜支援を行う。	保護者に対しても学校情報の提供を行い支援を仰ぐ。状況の把握、改善につなげていく。	
その他	教職員研修	資質向上	教職員間で職務内容(生徒対応など)を把握し、意見交換などを行う機会を設定している。	A		
		研修の充実(校内・校外)	教職員が計画的に校内研修に参加できる習慣や体制が整備されている。	B	生徒・保健指導研修や教科研修についての情報交換会は定期的実施している。姉妹校との連携が昨年度同様不十分である。教員が相互に各校スクーリングへ参加する等、交流の場を設けていく必要がある。	グループ全体で生徒指導の事例を共有できる仕組みを整えていく。WEBでの会議システムを活用する等、フレキシブルにコミュニケーションを取ることができる仕組みを整えていく。
		他校及び関係機関との連携	姉妹校との連携を深め、通信制高校としての在り方などの情報交換を行い、学校全体としての向上を高める。	B		
	地域との連携	地域への貢献	地域行事への参加、経済的貢献	A	秋祭りへの参加、草刈り業務を自治体に委託、イベント練習会場の提供を行った。経済的貢献においては、スクーリング時に地元の業者や施設を積極的に活用した。	通学コースを10月からスタートさせ、定期的に活動できる生徒の母体団ができた。地域貢献にまで至っていないため、地域へのボランティア活動等、地域と一体となった活動を模索していく。

校長	教頭	事務長
		